


 ざいそう

毎日自宅で同期会

山本茂樹



私たちのグループはここ1年間、毎日自宅で高校の同期会をやっている。と言ってもネット上の世界の話である。

私は少なくとも朝夕2回、インターネットの中に設置している「共有の掲示板」を開き、新着情報に目を通すのが日課になっている。お目当ては主として各地の写真である。最近の例では札幌の雪祭りや沖縄の先島諸島の鮮明な旅行写真が掲示された。時節柄京都などの著名な雛祭り風景もあった。ブラジル在住の同期生からも、地球の裏側から季節違いの通信が来る。私は専ら故郷の田、山、空、雲など四季の変化を撮り続けて発信している。

それを見ている全国の友人たちから感想などが応答されて来ると話題ごとに連鎖的に表示されていくが、時には音楽に造詣の深い友人から話題に因んだ音楽が添えられてくる。

楽しいことばかりではない。突然友人の訃報が掲示されたりする。すると各地から直ちに追悼文が追いかけて表示される。それらをプリントしてご遺族に届けて弔意を表した友人もいる。現実の葬儀には遠方でとても出席できなくても有志だけでネット上の葬儀をしているようなものである。こんな時はネット上でも暫くの間ややシーンとなる。

また何かのきっかけで別の話題で盛り上がる。

同期会のホームページが設置された由来は、一昨年の秋の高校卒業50周年記念同窓会である。翌日の佐賀新聞は、卒業生は1,081名、出席者は330名。開会に先立ち亡くなられた146名の霊に黙祷をした云々と写真付きで報じた。

どれもが多数数だがこれは同級生だけの人数である。関東地区だけでも205名在住している。名簿を見るだけで1人3秒としても54分。住所録を印刷すると約40ページ。一回の通信料だけで約10万円。宛名書きなどを含めると気が遠くなる作業量だ。その総会準備のために組織された地元の有力者による実行委員会ではインターネットの活用を思いつき、その担当者として多少の経験があった私を指名してきた。

確かにインターネットは多くの利点がある。それに加入すれば、(我々の例では)経費は月に950円。この中にはホームページ容量50MB分(単行本で約50冊分程度。これは大部分の人は未利用)の利用料も含まれており確かに安い。

私は同級のIさんの協力を得て総会開催の1年前にホームページを立ち上げた。実行委員会発表事項や契約ホテルの状況。会員名簿を分析して個人別の在籍表「君は何組？」や担任の先生の名前をクリックすると表示される3年間全68クラスの座席図「教室再現」

も作成した。しかし、インターネットを利用している人数が全体で60名程度しかなかったので実戦的には情報伝達のメインの手段にはなり得なかった。同窓会は予定通り見事な成果をあげて終了したが、ホームページは次のステップを模索せざるをえなかった。

「会員参加型」の見本を求めて全国各地の同窓会のホームページを拝見したが、殆ど大部分が「イベント広報型」だった。私はインターネットで双方向通信を可能にするCGIという技術を利用して、会員が自宅から直接自分の原稿を「投稿」できるようにしようと考えた。これなら私も手間がかからないし投稿者がリアルタイムで掲示できる。

ようやく昨年1月末、最初の「CGI掲示板」を2種類(その一つが写真や音楽を併送できる)導入した。それをいち早く発見した東京のAさんから、「掲示板発足おめでとう御座います」と最初の直接投稿文字が我々の掲示板に出現した。すぐに鎌倉のT君は「今朝の富士山」の写真を掲示してくれた。当初未知数であったこの「掲示板」が今は2,238通(A型掲示板、3月20日現在)にも達し沸騰の中心になっている。

旧制中学以来の友とは通算6年間、新制高校からの友とは3年間。時間数で言えば人生の中のそう長い期間ではない。その後はそれぞれ別々の道を歩いてきたにも拘わらず古今東西何処でも同窓会は盛んである。それは多感な青春時代を共に過ごしたからであろう。ネット上の同窓会はそれに加えて「優しさ」が伴っているように思う。現実の利害や衝突がないうに遠方の友は故郷に住む我々に特別の優しさを持っている。だから朝夕は高校生のような純真さに戻れる貴重な時間でもある。そうは云うが、やはりお互いに頑固だな、と思う時もある。自分は正しいと思い込んでいる。私も立派な頑固者になりきっていることに時々気がついて苦笑する事が多い。

同じ年齢だから健康関連の話題は共通の関心事である。恩師のT先生自作の健康カルタはありがたい。同級生に医者なども多い。ネット上でそれとなく訴えておくと後でヒントをメールで呉れる人もいる。

同窓会本部からは今後10年間分の予算を預かってしている。つい最近も新人が参加した。卒業50周年超のホームページ。参加者の増減は先ずはその内容次第だろうが、もう一つの外部要因として我々世代でのIT普及度アップと体力ダウンとの競争の結果も影響するのかなと考えている。

—やまもと しげき 社団法人日本建設機械化協会九州支部顧問・松尾鋪道株式会社顧問(前社長)—